

1. はじめに

時制の対立のある節を導く3つの条件形式(ギー、ナイ(バ)、トヤギ)を持つ佐賀西部方言(佐賀県南部の旧佐賀藩域の西部)において、ギー節では時制形式のアスペクト的性質が顕在化し、ナイ(バ)・トヤギ節ではテンス的性質が顕在化することを示す。

2. アスペクト的性質とテンス的性質

2-1 日本語の時制形式と時間解釈(有田 2019)

時制: 事象を時間的に位置づける文法範疇

タ形: -タ(-ta, -daという異形態を含む)という屈折接尾辞。

基本形: 動詞文では-uまたは-ru、形容詞文では-i、形容動詞文、名詞文では-da, -dearuという屈折接尾辞。

A) 時制形態素の選択: a. タ形: 事象時<基準時 b. 基本形: 事象時≧基準時

B) 発話時を基準にした時間解釈は発話時と基準時との時間的先後関係による。

2-2 アスペクト的性質とテンス的性質

C) 状態性述語の基本形の時間解釈: 事象時=基準時(=発話時の場合、現在時)

動作性述語の基本形の時間解釈: 事象時>基準時(=発話時の場合、未来時)

◇ 動作性述語の基本形が現在時を指す場合の解釈は語彙的アスペクト¹に依存する。

(1) 「わたし、こういうところに泊ってみたかったんです」霧子は海に面した窓を開き、紺碧の地中海に向かって大きく息を吸う。(「化身」)²〈活動動詞〉動きの持続

(2) 大学の正門へ折れる、いつもの交差点だ。ぼくは必死でペダルを漕ぎ、信号の真下に止まる。(「どこにもない短編集」)〈到達動詞〉開始時/終結時

(3) 彼は帰り支度にかかる。持ち帰る書類を茶色の革鞆に入れ、スーツの上着を着る。(「アフターダーク」)〈達成動詞〉開始時/過程/終結時

D) 動作性述語の基本形の「未来」解釈は、語彙的アスペクトに依存しない。

(4) a. あ、荷物が落ちる。(現在時の延長)

b. この電車はまもなく東京駅に到着します。(時刻表)

c. 田中さんは来年退職する。(定年退職の規程)

d. もうすぐ友人が来る。(約束)

e. 来週の金曜日は出張で東京に行きます。(出張計画)

} 〈根拠に基づく確定的未来〉

(5) a. そんなに使うと、そのうちなくなるよ。

b. たぶん、今日の試合は日本が勝つ。

c. 心配しなくても、きっと見つかる。

} 〈推定〉

¹ Vendler (1957)で定義された「活動動詞」「到達動詞」「達成動詞」「状態動詞」の4分類に従う。

² 出典記載の例文は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)より抽出した。

- (6) a. もう部活やめる。 b. 明日、彼に会いに行く。 〈意志〉

E) タ形の時間解釈³

動作性述語のタ形: 事象時<基準時 (=発話時の場合、過去時の解釈)

F) タ形の「近い過去」は動詞の語彙アスペクトに依る解釈である

(7) a. あ、一塁ランナー走りました!!.....盗塁成功です。〈活動動詞〉開始局面直後

b. 「やっと起きたね」下から大きな信行の声がした。(鈴木 1979: 48) 〈到達動詞〉変化の局面直後

c. ラフに入れても、グリーンを外しても耐えてパーをセーブ。パーディーは9番で4メートルを沈め、折り返して4つ。首位の川岸がスコアを落とし、とうとう並んだ。予選ラウンドは七十三、七十。安定しているように見える3日間を「相当こらえてる」。

(産経新聞, 2005年) 〈達成動詞〉変化の達成局面直後

G) タ形の「現在と切り離された過去」は動詞の語彙的アスペクトに依らない解釈である。

(8)昨日は、{映画を観た/正午に起きた/和服を着た}。(現在と切り離された) 過去

表1 基本形・タ形の2種類の解釈とモダリティ

	動詞の語彙的アスペクトに依存	動詞の語彙的アスペクトに依存しない
基本形	発話時を含む幅のある現在	確定的未来 (⇒推定・意志)
タ形	発話時につながる過去	現在と切り離された過去

3.日本語条件節の時制節性と条件文の用法分類

- ◆ 日本語標準語の基本条件形式(「なら」「たら」「と」「ば」)のうち、「なら」のみ時制形式の対立がある。表1の2種類の解釈がナラ節の基本形・タ形に認められるか?

3-1 既定性と話し手の事実認識による分類

H) 既定性 (有田 2017)

ある文に表される事象の事象時と発話時が次のような関係にある場合に、その文は当該事象の成立が発話時において決定している、すなわち、「既定性」を持つ:

事象時<発話時 または 事象時=発話時

(9) a. 昨日、映画を見た。 b. 昨日は天気が悪かった。 c. 今忙しい。

I) 発話時<事象時であっても、〈発話時においてその成立が見込まれる〉場合も、「既定性」を持つ。

(10) a. 次のバスは10分後に来る。〈時刻表〉 b. 来週東京に出張する。〈出張計画〉

c. もう6時だから、そろそろ帰ってくる。〈日常〉

J) 発話時<事象時で、発話時においてその成立が見込まれていない以下の下線部分は、既定性は持たない。

(11) a. もっとまじめに取り組むべきだ。 b. この荷物を運んでください。

³ タ形に現在と切り離された過去の用法と、現在と結びついた近い過去の用法の2つを認めることは研究者間に大きな隔たりはないものの、それをタ形の2つの意味とするかどうかで考え方が異なる (井上 2011)。

K) 条件節事態（前件）の既定性と条件文の用法分類

表2 既定性と話し手の事実認識による分類

	予測的条件文	認識的条件文	反事実的条件文	総称的条件文	事実的条件文
既定性	非既定的	既定的	既定的		
話し手の事実認識		知らない	知っている		

(12) 明日雨が {降ったら／降れば}、試合は中止になるだろう。

〈非既定的〉 予測的条件文

(13) 今からお菓子を食べるのは、危険ですか？（中略）これから寝るなら体脂肪になる危険はあります。夜通しはたらく⁴ならだいじょうぶでしょう。（Yahoo!知恵袋, 2005年）

〈非既定的〉 予測的条件文

(14) 頑固で融通のきかない性格を、改めるように心がけましょう。なかなかむずかしいことだけど、努力家のあなたなら、きっとできるはずです。さらに、協調性も身につけたなら、怖いものナシとなるでしょう。（『With』講談社, 2001年）〈非既定的〉
予測的条件文

(15) あー、ここでも相当降ってるな。あっちも同じぐらい{降っているのなら／降っていれば／降っていたら}、試合は中止になるだろう。〈既定的〉 認識的条件文

(16) 午後8時に羽田を発つなら、6時には着いていたほうがいい。

確定的未来 〈既定的〉 認識的条件文

(17) 明日出張するなら、戻りがいつになるか教えてくれ。

発話時における推定・意志・予定 〈既定的〉 認識的条件文

L) 前件に対する話し手の事実認識

a-1 非既定的なことは誰にも知り得ない

a-2 既定的なことは知りうる→知っている／知らない

(18) あのとき、もっと気をつけていたなら、転ばずにすんだのに。

〈既定的〉反事実的条件文

M) ナラ節の時制形式のアスペクト的性質とテンス的性質

基本形+ナラ アスペクト的性質 テンス的性質 (⇒推定・意志)

タ形+ナラ アスペクト的性質 テンス的性質

予測的／反事実的条件文の前件 認識的条件文の前件

◆ 総称的条件文と事実的条件文をどう扱うか、問題になる。

4. 佐賀方言の条件節の時制

4-1 佐賀県の方言

四区画案（小野 1983, 藤田 2003）

⁴ 「寝る（つもり）なら」「働く（つもり）なら」のように意志が含まれる解釈の場合は認識的条件文に分類される。

南部の旧佐賀藩域（東部・西部）・北部の旧唐津藩域・東部の旧対馬藩域

「佐賀西部方言」

◇ 国立国語研究所(編)『方言文法全国地図』(GAJ)の条件表現が確認できる 19 図において、方言条件形式「ギー」の使用が確認できるのは旧佐賀藩域のみ。

4-2 佐賀西部方言の条件形式と時制形式の対立

表 3

標準語の基本条件形式	佐賀西部方言の条件形式	時制形式の対立
ナラ	ギー、(ト) ナイ (バ)、トヤギ	時制形式の対立あり
バ、タラ、ト	(タラ、トキヤー)	時制形式の対立なし

◆ 佐賀西部方言の2種類の時制の対立のある条件節において、それぞれの節の時制形式の機能に違いはあるのか。あるとすれば、それはどのような違いか。⁵

4-3 佐賀西部方言条件節におけるタ形

タ形+ギ：事実的条件文、反事実的条件文（→完了アスペクト形式-torが必要）

(19)ソッケー イッタギー、カキノ モー オワットッタモンネ。

（そこへいったら、会はもうおわっていた。）

(20)エキマエバ アルキヨッタギー チューガクノ トキノ ドーキューセーニ オータバイ。（駅前を歩いていたら、中学の時の同級生に会った。）

(21)チャント ジュンビ シトッタギー、イマ アセランデ ヨカッタトニ。

（ちゃんと準備していたら、いまあせらなくいいのに。）

(22) アシモトヲ ミトッタギー コロバンヤッタトニ。

（足下を見ていたらころばなかったのに。）

タ形+(ト) ナイ (バ) /トヤギ：認識的条件文、反事実的条件文 (-tor)

(23)モシカッタ {トナイバ/トヤギ}、フタツメノ キンメダルヤンネ

（もし勝ったのなら二つ目の金メダルだね。）

(24)アシモトヲ ミトッタ{(ト) ナイバ/トヤギ} コロバンヤッタトニ。

4-4 佐賀西部方言条件節における基本形

基本形+ギ 予測的条件文、総称的条件文、事実的条件文、反事実的条件文 (-torが必要)
(認識的条件文)

(25)アメノ フッギー ウンドーカイワ ナカロ

（雨が降れば運動会はないだろう）

(26)アンヒトノ イエニ イクギー イツデン ゴチソー シテクルイヨネ

（あの人の家に行くといつでもご馳走してくれる）

(27) トーチャンワ アサ ロクジニ オキーギ サンポニ イクモンネ

⁵佐賀西部方言のデータは、武雄市山内町出身の70代男性に行った3回の面接調査（2023.9, 2024.6, 2024.9）による。

(父さんは、あさ、(たまたま) 6時に起きれば散歩に行く。)

(28) ソイワ ミセニ {a. ハイッギー b. *ハイッタギー} レジニ マッスグ イカイタバイ。
(そいつは、店にはいると、レジにまっすぐ行った。)

(29) チャント ジュンピ シトツギ、イマ アセランデ ヨカッタトニ。

(ちゃんと準備していたら、いまあせらなくいいのに。)

(30) (山本さんが来るらしいよ) ヤマモトサンガ クッギー オイモ イコーカナ

(山本さんが来るなら、わたしも行こうかな)

基本形+(ト)ナイ(バ) /トヤギ 認識的条件文

(31) (山本さんが来るらしいよ) ヤマモトサンガ クッ⁶{トナイバ /トヤギ} オイモ イコーカナ⁶

(32) ウンテン{スットナイバ/スットヤギ} サケバ ノムギイカンゾ。

(運転する(つもり)なら酒を飲んだらだめだぞ。)

4-5 分析

事実的条件文のギー節

N) 同一主体の連続動作((28))の場合、タ形ではなく基本形が現れる。

◇ ギー節の動作動詞の基本形を基準時よりも後とすると、基準時を発話時としても、基準時を主節事象時としても、(28a)が過去時で主節事象よりも前という解釈は出てこない。「はいる」の持つ「主体の位置変化を表す」という意味に着目し、(28a)の基本形が、動詞の語彙的アスペクトに依存して、その変化の局面が基準時に成立するというふうに解釈されるとすると、基準時が主節事象時と同時の場合、適切な時間解釈が得られる。

O) ギー節と主節の主体が異なる場合、タ形が現れる。

◇ (19)のギー節のタ形は基準時よりも前である。(19)の「行く」の「主体の位置変化を表す」というアスペクト的意味に着目すると、(19)の「行った」は、基準時より前の変化の事象の結果状態が基準時にあるというアスペクト的性質が顕在化した解釈として捉えられる。

総称的条件文のギー節

P) 総称的条件文には基本形が現れる。法則的な関係と習慣的な関係があるが、(27)はギー節事態が「たまたま」成立した場合には主節事態が成り立つという関係を表している。**習慣的な行為を表しているのではない。**

◇ 習慣的行為の場合は、ギーではなくテ形を使う。cf. トーチャン マイアサ ロクジニ オキテ サンボニ イクモンネ。

反事実的条件文のギー節、(ト)ナイ(バ)節、トヤギ節

Q) 動作性述語の場合は完了アスペクト形式「トル」を伴う必要がある。(21)と(39)に見ら

⁶ 調査協力者によると、「クットナイバ」「クットヤギ」に比べ、「クッギー」の方がより率直に話し手の「行く」という気持ちが表されているとのことである。

れるように、時制形式としての基本形・タ形の対立は中和している。「(ト) ナイ (バ)」、トヤギも「トル」+タ形(「トッタ」)に後続するが、ギーの方が優先的に選ばれる。認識的条件文のギー節、(ト) ナイ (バ) 節、トヤギ節

- R) 基本形+ギーは、(33)のような未来の推定を表す用法がある。
 S) 一方、(36)のような意志を表す用法は、基本形+ギーにはなく、基本形{(ト) ナイ (バ) /トヤギ}にはある。

表 4 佐賀西部方言の条件節時制の機能

	時制形式	テンス／アスペクト		モダリティ
(ト) ナイ (バ) 節・トヤギ節	基本形	テンス的		推定、意志
	タ形			推定
ギー節	基本形	アスペクト的	テンス的	推定
	タ形	アスペクト的		

5 ギー節と限定の意味

- ◆ ギーは限定の意味を表す「ぎり」が起源とされる(藤田 2003)。表 4 のような時制形式のテンス・アスペクト・モダリティ的性質は限定の意味に関係するの。「限り」節の条件用法(中山 1997、北澤 2001、川島 2022、岩田 2024 など)とギー節について、時制形式の機能を比較し、考察する。

5-1 「限り」節の条件用法

「限り」節の条件用法は、「限り」節の事態の事象時が発話時よりも前の**用法 A**(「既定的」(中山 1997))と、それ以外の**用法 B**(「予定的」および「仮定的」(中山 1997))に分けられている。

(33)「概要」を{見た/見る}限り、あまり説得力はない。 用法 A **タ形が現れうる**

(34)お金が続く限り、太郎は切手を{集める・集めた}。 用法 B

(35)洋子が来ない限り、パーティは成功しない。 用法 B

T) 用法 A に現れるタ形は常に発話時より前の解釈になる一方、基本形は基準時(=主節の事象時)と同時で、基準時と発話時の時間的先後関係により、発話時より前の解釈にも発話時以後の解釈にもなる。

(36)従って離婚の届出が両当事者の真意に基づいてなされた限り、法律上は婚姻を解消し、あとは内縁関係が残ると解すべきだろう」と述べた。(宮崎幹朗『婚姻成立過程の研究』)

(37)村上新八郎は、死ぬ時と場所を探していたのかも知れない…。左近は善國寺の境内を出た。お静と新八郎死体を残して…。新八郎が死んだ限り、お静が身体を売って金を稼ぐ必要はなくなった。(藤井邦夫『愛染夢想剣』)

U) 「限り」節が否定の「ない」を含む場合((39))、「ない」は専ら**命題否定解釈**になり、述語否定解釈は抑制される。

(35)'[洋子が来]ない限り [[パーティ成功]しない]

◇ 主節に否定的なニュアンス、すなわち、「パーティが成功しないのは望ましくない」と

いう含みがある。⁷

5-2 ギー節と「限り」節の条件用法の時制形式の比較

V) ギー節の基本形と「限り」節の基本形は、共に、基準時と同時で、基準時と発話時の時間的先後関係により、発話時よりも前の解釈にも発話時以後の解釈にもなる。

〈アスペクト的性質が顕在化〉

W) 基本形が「推定」の含みをもつことがある。

X) ギー節のタ形と「限り」節のタ形は、ともに発話時よりも前に解釈されるという点では共通する。

☆ 事実的条件節に現れるタ形+ギーは、基準時より前の変化の事象の結果状態が基準時にあるという解釈。〈アスペクト的性質が顕在化〉

☆ 「限り」節の用法 A のタ形は、現在と切り離された過去として捉えられる。〈テンズ的性質が顕在化〉

5-3 ギー条件文とカギー（「限り」）の条件用法の主節のモダリティ

発話の時点の話者の持つ信念からなる集合を「K」、前件を「p」、後件を「q」とし、信念 K に p が仮定的に加えられる際に、p と矛盾しないように調整された信念を「K*」とする。

(有田 2017:3)

条件文： $K \Leftrightarrow K^*, p \Leftrightarrow K^*, p \rightarrow q$

条件節の意味を「主節のモダリティが作用する領域を限定する」とする立場をとる (Kratzer 1986)。明示的なモダリティ形式がない場合も音形に現れないモダリティ (∅) を仮定する。

(36) 雨が降れば [試合が中止される] だろう / ∅。

(以後、矢印は省略)

Y) 条件節としてのギー節は主節のモダリティの作用域を限定する。

(37) アメノ フツギ ウンドーカイワ ナカ ロ / ∅

◇ 事実的条件文は、発話時以前のある時点 (「-t」とする) における信念 (「K_{-t}」) に前件 p が仮定的に追加されたものとして捉える。 $K_{-t} \Leftrightarrow K_{-t}^*, p \Leftrightarrow K_{-t}^*, p \rightarrow q$ (有田 2017:15)

(38) ソクケー イツタギ カイノ モー オワツツタ ∅

◆ 「限り」節も主節のモダリティの作用域を限定する働きを持つのか？

(39) オカネノ ツヅクギー キツテノ アツム ∅

(40) オカネノ ツヅクカギー キツテノ アツム ∅

☆ (39)と比べ(40)の方が「集める」**意志を強く表す**。

(41) ケーヤクショバ ダサンギー ココニワ スマレンバイ

(42) ケーヤクショバ ダサンカギー アンタワ スマセンヨ

☆ どちらも、後件が成立することが望ましくないことが表されるが、(42)の方が、

⁷ 「ない」を述語否定のように解釈すると、(35)は用法 A (既定的) に分類される。

「契約書を出す」ことに対するより強い必要性が表される。

6 おわりに

- ◇ 時制の対立のある節を導く3つの条件形式（ギー、(ト)ナイ(バ)、トヤギ）を持つ佐賀西部方言では、基本的には、ギーの節の時制形式はアスペクト的性質が顕在化し、(ト)ナイ(バ)節、トヤギ節の時制形式はテンス的性質が顕在化することを示した。
- ◇ ギー節の時制形式のうち、基本形のアスペクト的性質は、範囲・限定を意味する「限り」節と共通する。一方、タ形は、ギー節ではアスペクト的性質が顕在化するのに対し、「限り」節では必ずしもそうではない。これは、ギー節が主節のモダリティの作用する領域を限定するという(仮定)条件節の機能を担っている一方で、「限り」節がそのような機能を担っているわけではないことに起因すると考えられる。
- ◇ 佐賀西部方言におけるカギー(「限り」)節とギー節の比較については機会を改めて論じる。

謝辞 本研究はJSPS 科研費 19H01262 を受けて行った研究成果の一部である。

引用文献

- 有田節子(2017)「日本語の条件文分類と認識的条件文の位置づけ」有田節子編『日本語条件文の諸相：一地理的変異と歴史的変遷一』pp.3-32. くろしお出版.
- 有田節子(2019)「スル・シタ・シテイルの意味をめぐる3つの問い」庵功雄・田川拓海編『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第1巻「する」の世界』, pp. 25-52. ひつじ書房.
- 有田節子(2024)「日本語条件節の時制とモダリティ」中部日本・日本語学研究会(2024.7.27 名古屋工業大学)
- 井上優(2011)「動的述語のシタの二義性について」『国立国語研究所論集』1-1, 21-34.
- 岩田美穂(2024)「形式名詞カギリの用法—条件解釈を中心に—」京都日本語学研究会(2024.9.5 立命館大学)
- 小野志真男(1983)「佐賀県の方言」『講座方言学9 九州地方の方言』国書刊行会
- 川島拓馬(2020)「現代日本語における「限り」の意味・用法」『文藝言語研究』78, 25-47.
- 北澤尚(2001)「条件表現形式「限り」の文法記述」『東京学芸大学紀要・第2部』52, 37-45.
- 鈴木重幸(1979)「現代日本語の動詞のテンス—終止的な述語につかわれた完成相の叙述法 断定のばあい」(鈴木重幸(1996)『形態論・序説』pp.107-158. むぎ書房に所収)
- 藤田勝良編(2003)『日本のことばシリーズ41 佐賀県のことば』明治書院.
- 三井はるみ(2011)「九州西北部方言の順接仮定条件形式「ギー」の用法と地理的分布」『國學院雑誌』112(12)
- 中山英治(1997)「「限り」とその周辺」『国語学会平成9年度春季大会要旨集』pp.47-54.
- Kratzer, A. (1977). What “must” and “can” must and can mean. *Linguistics and Philosophy*, 1(1), 337-355.
- Vendler, Zeno (1957) Verbs and Times. *The Philosophical Review*, Vol. 66, No. 2, 143-160.